

IWATACHIZAKI SUSTAINABILITY REPORT 2023 - 2024

岩田地崎建設株式会社 IWATA CHIZAKI INC.

〒060-8630 北海道札幌市中央区北2条東17丁目2番地 TEL 011-221-2221, FAX 011-222-7682 URL <https://www.iwatachizaki.jp/>
2,Kita 2-jo Higashi 17-chome, Chuo-ku, Sapporo Hokkaido 060-8630 Japan TEL +81-11-221-2221, FAX +81-11-222-7682



この印刷物は北海道の風力で発電された
グリーン電力で印刷されています。

サステナビリティレポート編集方針



IWATACHIZAKI
SUSTAINABILITY REPORT
2023-2024

編集方針

サステナブル社会の実現を目指し推進している取り組みを
ステークホルダーの皆さまにわかりやすくお伝えします

サステナビリティレポート2023-2024は、当社のミッション「安心で豊かな社会環境
づくりに貢献する」に基づき、人と自然環境に優しいサステナブル社会の実現を目指して
推進する当社の取り組みを、皆さまにわかりやすくお伝えするものです。

今後も、次世代へ受け継がれる良質な社会の形成に向け、事業活動・社会貢献活動を通じて
寄与してまいります。

紙面の都合で掲載できないコンテンツやその他の活動事例、データや最新情報については企業Webサイトに
適時掲載しています。

■ 報告対象期間 2023年4月～2024年3月
※当該年以外の活動も
一部掲載する場合があります

■ 報告対象範囲 岩田地崎建設株式会社の活動を
報告しています

社会環境の変化に応じ これまでの目標設定を見直しました

社会環境の変化に伴い、企業を取り巻く状況やニーズも急速に変化しています。

私たちは、このような状況に柔軟に対応し、持続可能な成長を実現するため、マテリアリ
ティ(重要課題)を特定しました。現在の社会的ニーズに即した課題と当社が重点的に取り
組むべき目標を設定し、企業として目指すべき姿に向けて着実に前進していきます。

2024年度の目標設定では、持続可能な社会の実現に向けて、マテリアリティに対して
リスクと機会を分析・把握し、社員一人ひとりが主体的に取り組むことができるよう、活動
方針・活動内容を策定しました。毎年度、進捗状況を確認し、定期的に見直しを行い活動を
推進していきます。

本レポートでは、新たな目標設定をP3～4で報告し、昨年度までの取り組み状況と実績は
P13～P14ページで報告いたします。

岩田地崎建設が目指すSDGs

建設事業を通して 様々な社会の問題解決に貢献する



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

岩田地崎建設株式会社



C O N T E N T S

サステナビリティレポートについて

サステナビリティレポート編集方針	1
コンテンツ(目次)	2

SDGs目標設定

新たな目標設定	3-4
---------	-----

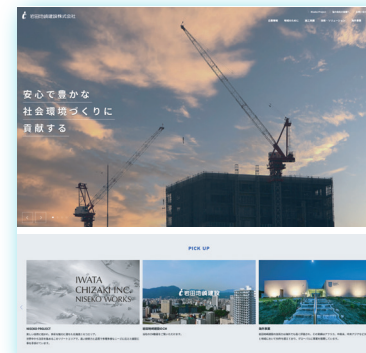
活動事例・活動報告

活動事例・活動報告(TOPICS)	5-11
SDGs推進委員会メッセージ	12
SDGs取り組み状況と実績 ＜昨年度までの報告＞	13-14

会社情報

会社情報・業績報告	15-16
SDGs(持続可能な開発目標)とは	17-18

企業Web



企業情報、地域貢献、施工実績、
技術・ソリューション、その他 最新情報は
こちらからご覧いただけます

<https://www.iwatachizaki.jp/>



パンフレット・デジタルパンフレット

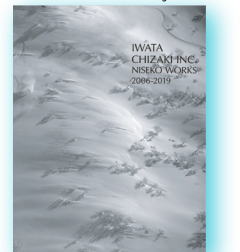
■ 施工実績



■ 施工実績

<https://www.iwatachizaki.jp/jisseki/>

■ Niseko Project



■ Niseko Project

<https://www.iwatachizaki.jp/jisseki/niseko.html>



新たなマテリアリティ(重要課題)の設定と2024年度目標設定

社会環境の変化に伴い、企業を取り巻く状況やニーズも急速に変化しています。私たちは、このような状況に柔軟に対応し、持続可能な成長を実現するため、マテリアリティ(重要課題)を特定しました。現在の社会的ニーズに即した課題と当社が重点的に取り組むべき目標を設定し、企業として目指すべき姿に向けて着実に前進していきます。

2024年度の目標設定では、持続可能な社会の実現に向けて、マテリアリティに対してリスクと機会を分析・把握し、社員一人ひとりが主体的に取り組むことができるよう、活動方針・活動内容を策定しました。毎年度、進捗状況を確認し、定期的に見直しを行い活動を推進していきます。

岩田地崎建設のマテリアリティ／SDGs目標および指標(KPI)

2024年4月1日～

	重要課題（マテリアリティ）	リスク	機 会	活動方針	活動内容	2024年度指標（KPI）		2024年度目標
E Environment	地球環境保全への取り組み     	●取り組みの遅れによる信頼の低下、競争力の低下 ●規制対応コストの増大 ●温暖化に伴う労働環境の悪化 ●自然災害の激甚化、頻発化	●環境関連、再生可能エネルギー関連の建設需要の増加 ●先駆的な取り組みによる企業価値の向上、ビジネスチャンスの拡大	カーボンニュートラルの実現	低炭素型燃料／資材の利用推進 省エネルギー／再生可能エネルギーの推進	取り組みの試行、展開 具体的な数値目標の設定		
					事業活動におけるCO ₂ 排出量の削減	CO ₂ 排出量削減率（2023年度比） スコープ1+2（※1）[自社排出量] スコープ3 [自社活動関連の他者排出量] ●2030年までの目標(KGI) スコープ1+2:▲42 % スコープ3:▲25 % を目指す	CO ₂ 排出量削減率（2023年度比） スコープ1+2：▲ 6 % スコープ3：▲ 3.5 %	
				循環型社会の実現	混合廃棄物の発生抑制	混合廃棄物排出率	3.0 %以下	
					再生材利用の推進	取り組みの推進		
				自然と共生する社会の実現	緑の水田プロジェクトの推進 緑の森林プロジェクトの推進	プロジェクトの継続、発展		
S Social	現場力の強化と施工品質の向上    	●施工不良に伴う対策コストの増大 ●信頼の低下 ●受注機会の減少	●顧客満足度の向上 ●受注機会の拡大 ●生産性向上による競争優位性確保	施工品質の追求	施工支援体制の拡充 社内検査体制の強化	重大な品質不具合件数	0件	
				具体的な数値目標の設定（品質）				
				生産性の向上	スマート技術（ICT、DX等）の導入推進	具体的な数値目標の設定（生産性）		
	働きがいのある職場環境の実現     	●エンゲージメントの低下、優秀な人材の流出 ●生産性、競争力の低下 ●企業イメージ、信頼の低下	●エンゲージメントの向上、優秀な人材の確保 ●施工能力の向上、組織力の強化	社員のエンゲージメントの向上	ワークライフバランスの推進 エンゲージメントサーベイの実施 健康経営の推進	社員エンゲージメントサーベイ（※3）の実施		
					社員教育の拡充	健康経営優良法人の認定（継続）		
				働き方改革の推進	4週8閉所の実現に向けた環境整備	技術者教育の強化 具体的な数値目標の設定（資格保有率）		
	豊かな暮らしを支えるまちづくり       	●企業イメージ、信頼の低下 ●担い手不足の加速化 ●災害時復旧・復興の遅れ ●対策コストの増大	●企業価値の向上 ●地域イベント参画によるエンゲージメントの向上 ●インフラ長寿命化、防災関連の需要拡大 ●地域連携による事業機会の創出、事業領域の拡大	地域社会への貢献	地域イベントへの積極的参加	プロジェクトの継続、発展		
				学校教育分野における活動	インターンシップの取り組みの深化 職場体験学習等の開催・協力	職場体験学習等の開催・協力回数	5件	
				防災・減災への対応	防災協定の締結 復旧・復興への積極的協力	災害復旧工事依頼に対する対応	100%	
				パートナーシップの推進	産学官連携プロジェクトの推進	プロジェクトの継続・発展		
				国際協力の推進	グローバルな視点における持続可能な社会実現のための海外支援	海外におけるインフラ整備事業への参画件数	1件	
G Governance	企業倫理の徹底 	●事業活動の中断・停止 ●企業イメージ、信頼の低下 ●受注機会、採用機会の喪失	●信頼の確保 ●経営基盤の強化	コンプライアンスの徹底	コンプライアンス研修の強化 法令違反防止体制の構築	重大な法令違反件数	0件	
				情報セキュリティの強化	セキュリティに関しての情報発信、管理室での常時監視	重大な情報セキュリティ事故件数	0件	

※1 スコープ1…自社の燃料燃焼等による直接排出量，スコープ2…他者供給の電気・熱等使用に伴う間接排出量，スコープ3…自社の活動に関連する他者の排出量

※2 度数率＝ $\frac{\text{労働災害による死傷者数}}{\text{延べ実労働時間数}} \times 1,000,000$

※3 エンゲージメントサーベイ…社員のエンゲージメントを定量化して測定するための調査

活動報告 TOPICS

持続可能な社会の実現にむけて、私たちは多様な活動を展開しています。
こちらでは、その一部を紹介いたします。

※紙面の都合で掲載できないコンテンツやその他の事業活動については岩田地崎建設Webサイトに掲載しています。



TOPICS 01

再生可能エネルギーの推進を目指し、洋上風力1300t吊りSEP船を共同保有

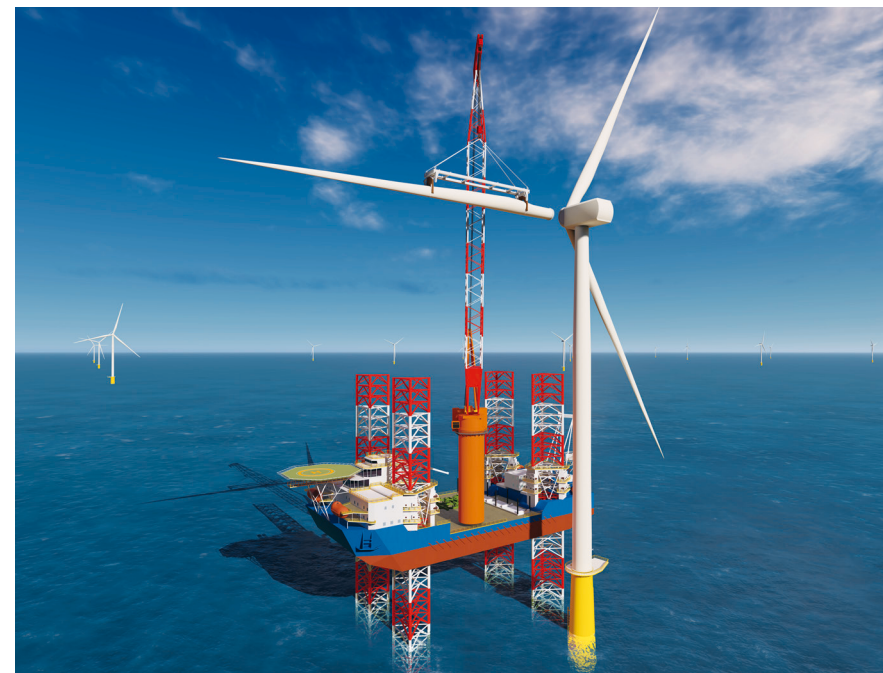
当社を含む戸田建設株式会社、株式会社熊谷組、西松建設株式会社、若築建設株式会社、株式会社吉田組の6社は、洋上風力発電の推進を目指し、SEP船の共同保有を目的とした調達契約を締結しました。

地球規模の気候変動対応が重要課題との認識のもと、2050年カーボンニュートラル達成を目指す政策を背景として、再生可能エネルギーの中でも市場規模の拡大が見込まれる洋上風力発電設備。今回導入予定のSEP船は、今後日本に導入される15メガワット(1万5千キロワット)級の大型洋上風車の建設に対応可能であり、より多くの電力を効率的に生産可能な発電施設の建設実現を推進します。

北海道は洋上風力発電のポテンシャルが大きく、政府が掲げる2040年導入目標の約3分の1を担うことが想定されています。今回の洋上風力市場への参入は、当社の中期経営計画に定めた「自然エネルギー環境分野への貢献」の実現にむけた具体的な第一歩となります。

私たちは、ゼネコンとマリコン(※4)の技術力・知見を融合し洋上風力市場への取り組みを推進します。

※4 マリコン … 「マリンコントラクター」の略称、総合建設業であるゼネコン(ゼネラルコントラクター)の一種で、海洋土木工事や港湾施設建築を専門とする建設会社



□ 保有SEPの特徴及び仕様概要

【特徴】

長さ130mのレグを活かし、稼働水深最大60m程度まで対応可能
着床式、浮体式風力発電施設建設ともに対応可能
6基のスラスターを搭載した非自航船であり、潮流や風などの外力に対し、風車建設位置で定点保持が可能
中古SEPの改造により安価にSEP提供が可能

【仕様概要】

船名：(仮称)JWFC SUNRISE
建造年：2014年
船体の大きさ：全長112m × 全幅50m
レグ長さ：130m
クレーン能力：1,300t吊に改造
船位保持装置：DPS 2(Dynamic Positioning System 2級)、スラスター 6基(非自航)
スケジュール：2025年3月改造完了、2025年9月供用開始予定

■ プレスリリース

<https://www.iwatachizaki.jp/kigyo/press-release/2023/20231003.html>



TOPICS 02

カーボンニュートラルの実現を目指して

カーボンニュートラルに向けた取り組みは、人類において喫緊の課題であり、一人ひとりの意識と行動の改革が必要です。
GHG(温室効果ガス)削減を目指し、現在取り組んでいる活動を紹介します。

PICK UP

ゼロカーボン北海道の実現へ！産学官連携による取り組み



▲ 2023年9月25日 記者発表会



◀ パイロットプラント外観

メタン酸化技術
開発研究棟



※5 サイレージ…



牧草やデントコーンなどの飼料作物を適度な水分を保ったままサイロなどで密封し、乳酸を主とした嫌気性発酵させた保存性の高い飼料のこと。サイレージ調整では、適度な水分量と適正なpHの環境下における嫌気性発酵が必要であり、その調整にギ酸が使用されています。

2023年9月、当社4階大会議室にて、岩田地崎建設株式会社、株式会社MORESCO、国立大学法人大阪大学、北海道興部町の4者によるゼロカーボン北海道の実現へ向けた「興部カーボンニュートラルイノベーション事業」の開始に伴い、記者発表会を行いました。

本事業は、北海道の補助金をもとに大阪大学が開発した世界初の「メタン酸化技術」を活用し、酪農を基幹産業とする北海道興部町にて、家畜ふん尿由来のバイオガスから常温・常圧下でギ酸とメタノールを直接連続製造する設備の実用化を図るものです。



今後、同4者によるコンソーシアムにて事業を推進し、令和8年3月末までの3か年でパイロットスケール装置の開発を進め、本事業終了予定年度となる2025年度には、10tのバイオギ酸を生産可能なパイロットスケールプラントの構築を目指しており、興部町を舞台に酪農家への供給を予定しています。

2026年度以降には、興部町内のギ酸需要量の生産・供給に向け、さらなるスケールアップを行い新設BGPへの搭載、そして2030年年度を目途に全道への展開を進めてまいります。

■ プレスリリース

<https://www.iwatachizaki.jp/kigyo/press-release/2023/20230928.html>



サステナブルな酪農エコサイクルの構築

家畜ふん尿由来のバイオガスから得られるギ酸は、古くから酪農現場において乳牛の飼料であるサイレージ(※5)生産時に添加物として利用されていますが、現在はそのほぼ全量を海外からの輸入に頼っており、価格も上昇傾向にあります。今後家畜ふん尿由来のギ酸の製造が可能となることで、酪農資材の自給自足・地産地消が可能となり、生産・輸送・利用工程における温室効果ガス排出量削減に繋げ、さらにはバイオマス由来のギ酸はカーボンニュートラルであることから、まさに「カーボンニュートラル循環型酪農システム」の構築が可能となります。

活動報告 TOPICS

持続可能な社会の実現にむけて、私たちは多様な活動を展開しています。
こちらでは、その一部を紹介いたします。

※紙面の都合で掲載できないコンテンツやその他の事業活動については岩田地崎建設Webサイトに掲載しています。



TOPICS 03 緑の森林プロジェクト

当社のミッション『安心で豊かな社会環境づくりに貢献する』、そしてビジョンのひとつでもある『人と自然の最適環境をつくる企業』の実現を目指す取り組みの一環として、2022年からスタートした「緑の森林プロジェクト」。

このプロジェクトは、森林の適正な整備、木材の利用推進、さらに脱炭素社会や循環型社会の実現を図り、そして生物多様性保全に貢献することを目的に継続実施しています。

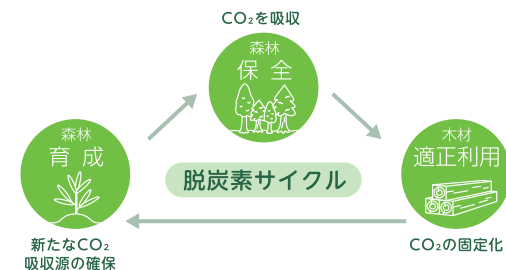


◀2023年5月
昨年度は、岩見沢市万字線鉄道公園周辺にて、社員とその家族合わせて47名が参加し、エゾヤマザクラ100本を植樹しました。

将来的には、このプロジェクトで植樹・育成した木を建築資材や木製家具の材料として活用することも目標としています。木材は再生可能な資源であり、適正な活用を促進することで建設事業による環境負荷を低減する効果が期待できます。

私たちは、木材の「環境に優しい資材」としての価値と活用方法を、建設会社の視点から広く伝えることで、木材の適正な活用を推進していきたいと考えています。また、原木を地元で製材し、製品化することによる地域産業活性化への貢献も目指しています。

このような取り組みを継続することで、企業としての社会的責任を果たしながら、地域コミュニティとの連携を一層強化していきます。



TOPICS 04 緑の水田プロジェクト

自然と共生する社会の実現を目指して

「緑の水田プロジェクト」は、地域の活性化・景観の保全・水田特有の生態系保全などを目的として活動を開始し、2023年度で8年目を迎えました。

4年ぶりに人数制限なしで開催された昨年は、5月に田植え、9月に稲刈りを実施、ぬかるんだ泥に足を取られながらも、鎌を手に、手作業で収穫を行いました。



◀ 2023年5月 田植え



▲ 2023年9月 稲刈り
社員とその家族を含め計51名が参加しました。



TOPICS 05 支店・作業所での取り組み

当社は、建設事業の特性である「全国・世界各地に作業所を設け地域に密着して事業活動を行う」という強みを活かし、各支店・作業所単位での地域貢献活動を積極的に推進しています。

これらの活動を通じて、地域の方達との信頼関係を深めると同時に、私たち自身もその地域の一員としての役割をしっかりと担っていきたくと考えています。



海外支店 ポリビア共和国 清掃活動や学生見学会を通じた地域交流

南米のポリビア共和国サマイパで、当社が施工した「ポリビア多民族国 国道7号線道路防災対策計画」において、地元住民の方々にも参加していただき清掃活動を行いました。

また、ポリビア共和国オルコ工科大学で、土木建築を学んでいる大学生を対象とした、現場見学会を実施しました。ポリビアでは行われていない日本の法面防災工法をととても興味深く見学していただけました。



東京支店 大雨による増水への 危機管理実働対応

令和5年9月8日、台風13号接近による大雨で綾瀬川が増水し、既存の排水機場の排水能力では処理しきれない可能性が生じ、国土交通省からの出動要請がありました。当社社員4名が現場に臨場し、実働対応いたしました。



東北支店 未来を切り開く技術展 EE東北'23に出展

宮城県仙台市で開催された建設技術公開「EE東北'23」に参加し、ARを活用した建設DX、ARマシンガイダンスシステム「ARMG」のシミュレーション体験と当社のDX推進・ICTに関する取り組みのパネル展示を行いました。



大阪支店 地域貢献清掃活動

これまでも行ってきた地域貢献清掃活動を引き続き実施しています。昨年度は「大阪マラソン」クリーンUP作戦」と題して、大阪マラソンに向けた美しい街づくりを目的に大阪支店から大阪城周辺にかけての清掃活動を行いました。



活動報告 TOPICS

持続可能な社会の実現にむけて、私たちは多様な活動を展開しています。
こちらでは、その一部を紹介いたします。

※紙面の都合で掲載できないコンテンツやその他の事業活動については岩田地崎建設Webサイトに掲載しています。



TOPICS 06 教育分野における活動・地域貢献活動

建設業界が持続可能な社会を目指すためには、次世代の担い手の育成が不可欠です。私たちは様々な活動を通じて、未来を担う子どもたちに建設業の魅力や重要性・最新技術を紹介し、将来のキャリア選択の幅を広げる活動を継続しています。

PICK UP 環境イベント・職業体験イベント等への参加、学校教育分野での出前授業

環境広場ほっかいどう2023

環境活動

北海道札幌市内で開催されたG7気候・エネルギー・環境大臣会合に合わせ、同時開催された『環境広場ほっかいどう2023』。

当社は「環境×建築」をテーマとしたブースを出展し、「カーボンニュートラル」「防災減災」「自然との共生」などSDGsへの取り組みについてのパネル展示を実施しました。

お子様でも楽しみながら建設と環境・SDGsとの関わりに関心を持っていただけるよう、アプリを使用したクイズ形式のイベントを実施し、前回は上回るご参加をいただきました。



FUN MORE 創成EAST

地域活性化

「創成イーストエリア」活性化プロジェクトとして、サッポロファクトリー煙突広場にて開催。当社も近隣企業としてブース出展し、約300名の方々にお立ち寄りいただきました。



下水道展'23札幌

技術紹介



技術開発の成果や、下水道に関する幅広い分野の最新技術などを紹介する「下水道展'23 札幌」に出展しました。ドローンによる災害復旧現場の映像放映・パネル展示、下水道施設の施工実績のパネル展示、また来場者にシミュレーション体験や建設×環境クイズを行い、建設会社の活動や環境に対する取り組みなどをお知らせしました。

技術開発の成果や、下水道に関する幅広い分野の最新技術などを紹介する「下水道展'23 札幌」に出展しました。ドローンによる災害復旧現場の映像放映・パネル展示、下水道施設の施工実績のパネル展示、また来場者にシミュレーション体験や建設×環境クイズを行い、建設会社の活動や環境に対する取り組みなどをお知らせしました。

ミニさっぽろ2023

職業体験

職業体験イベント『ミニさっぽろ2023』に出展しました。本イベントは札幌市内及び近郊の小学校3・4年生が仮想のまちの市民となって、働くことの楽しさや大切さを体験し、社会の仕組みを学んでもらうことを目的として開催しています。当社のブースには子どもたちに少しでも、建設業に興味をもってもらい、将来の職業選択の一つとして考えてもらいたいとの願いを込めて『建設ICT』をテーマに『ミニさっぽろ作業所』を出展しました。ドローンやバックホウシミュレーターの操縦体験コーナーや、建設環境クイズに答えてもらうブースを開設しました。



TOPICS 07 建設DXの活用・推進

BIM/CIM、AIやICTなどの先進技術を複合的に活用し、建設生産プロセスの最適化や省力化・省人化を推進しています。これまでに私たちが培った経験・技術をデジタル技術と融合することで、建設業全体の変革を目指します。

PICK UP 建設生産プロセスの最適化、省力化・省人化を推進



無人点検システム実証実験

2023年5月、北海道札幌市「駒岡清掃工場更新事業建設工事作業所」にて、ドローンによる「無人点検システム」の実証実験が実施されました。

本取り組みは、現場におけるDX推進の一貫として、岩田地崎建設株式会社・株式会社センシンロボティクス・エコモット株式会社の3社で2022年度より共同研究を開始した、ドローンとUGV(無人車両)による無人点検システムの開発であり、今回の試みは当社での屋内における非GNSS環境下の初飛行となりました。

飛躍的な省力化・省人化

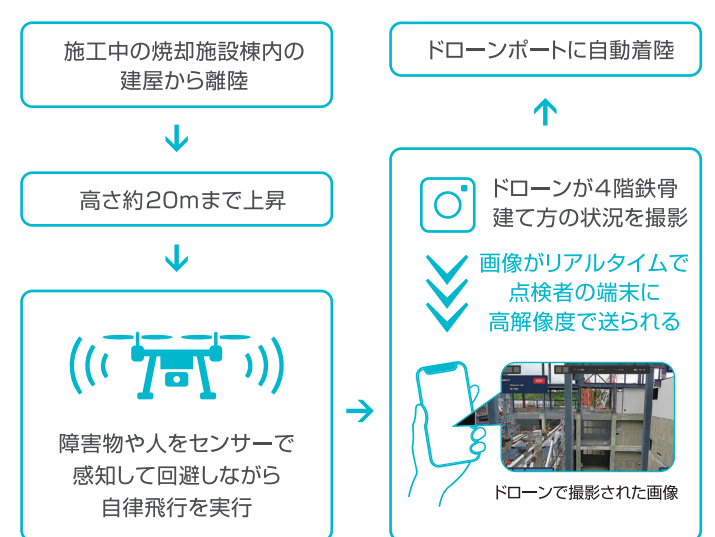
従来の点検では、作業員が実際に現場を歩き、目視で状況を確認するとともに、報告のための写真も撮影していました。

作業の進行状況によっては一日に何度も作業員が現場に行く必要があり、労働時間を削減できない一つの要因になっていました。しかし、今後当システムを現場に導入することにより、ドローンで撮影した映像はそれぞれの端末でリアルタイムに受信できるため、作業所など離れた場所からでも現場の点検が可能となると同時に、写真撮影もドローンカメラで行うことができるようになります。

IoTセンサーによる定点カメラとの連携等は必要不可欠であるため、今後も実証実験を積み重ねていき、精度向上を図ります。

私たちは、DXを推進し、現場の省力化・省人化を推進するシステムを構築していきます。

実証実験 DEMONSTRATION EXPERIMENT



▲ ドローンがポートから飛び立つ瞬間

活動報告 TOPICS

持続可能な社会の実現にむけて、私たちは多様な活動を展開しています。
こちらでは、その一部を紹介いたします。

※紙面の都合で掲載できないコンテンツやその他の事業活動については岩田地崎建設Webサイトに掲載しています。



TOPICS
08

地球規模でのSDGsへの寄与を目指し多様な地域で展開する海外事業

岩田地崎建設は、1982(昭和57)年インドネシアにおける肥料・砂糖プラント工事への技術者派遣をきっかけに、これまでアフリカ、中東、アジア、中・南米など世界30の国と地域において技術指導や建設工事を担っております。



実績国と地域

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1 モロッコ | 21 インドネシア |
| 2 カーボベルデ | 22 パラオ |
| 3 モーリタニア | 23 中華人民共和国 |
| 4 ガンビア | 24 メキシコ |
| 5 ガボン | 25 ドミニカ国 |
| 6 ギニア | 26 アンティグア・バーブーダ |
| 7 ギニアビサウ | 27 スリナム |
| 8 南スーダン | 28 パラグアイ |
| 9 ウガンダ | 29 ベルー |
| 10 タンザニア | 30 ポリビア |
| 11 コンゴ民主共和国 | |
| 12 ブルガリア | |
| 13 ヨルダン | |
| 14 アラブ首長国連邦 | |
| 15 キルギス | |
| 16 モンゴル | |
| 17 大韓民国 | |
| 18 台湾 | |
| 19 フィリピン | |
| 20 シンガポール | |

岩田地崎建設の海外事業は、政府開発援助(ODA)事業を主とし、開発途上国の発展を支援する目的で社会インフラ整備を中心とした工事や技術提供を行っています。近年は漁業の支援施設建設や、避難所整備、生活用道路橋の架け替え工事など、開発途上国の生活環境改善や経済発展に利する事業の支援業務を行っております。

PICK UP

災害を免れ避難拠点や災害復興基地としても機能したことも評価され「海外インフラプロジェクト技術者認定・表彰制度」において国土交通大臣賞を受賞

日本政府(JICA)が実施した政府開発援助:ODA(無償資金協力事業)で、カリブ海の島嶼国アンティグア・バーブーダ国のバーブーダ島において、漁獲した水産物が輸出可能となる水産複合施設を建設した案件では、島に水道設備がなく地下水にも塩分が含まれているため、コンクリート工事に必要な淡水は、日本から持ち込んだ脱塩・淡水化装置で地下水を淡水化して練り混ぜ水を調達することで高品質な施工を実現し、竣工後には現地自治体に脱塩・淡水化装置を寄贈いたしました。

また、竣工後の2017年に最大瞬間風速82m/sとなるハリケーン・イルマの直撃を受け、島のほとんどの建物が損壊する中、

当施設は災害を免れ避難拠点や災害復興基地としても機能したことも評価され、「海外インフラプロジェクト技術者認定・表彰制度」において国土交通大臣賞を受賞しています。

私たちは、建設事業を通したSDGs目標達成へ向け、日本国内のみならず地球規模での寄与を目指し、様々な国と地域で海外事業の展開を継続します。



SDGs推進委員会メッセージ



岩田地崎建設が目指す SDGs

「建設事業を通して 様々な社会の問題解決に貢献する」

岩田地崎建設の事業活動である建設事業は、その事業規模や社会的位置づけから、社会と環境全体に及ぼす影響が大きな業種です。

私たちの目標はSDGsへの取り組みや活動をより積極的に展開することで日本の建設業全体が「持続可能な社会の発展へ向け大きく貢献できる産業」へと成長を続けることです。

そのためには、我々一人ひとり、一つひとつの企業の力だけ

ではなく、多くの力がSDGsによって束ねられることにより、さらに大きな力で社会的課題の解決につながっていくものと考えています。

2030年までに取り組むSDGsは、半分を折り返したところ です。今一度、取り組みを振りかえり、今後どのように進化していくか考えながら、SDGsの体制をより一層強化し、社会課題の解決へ向け挑戦を続けます。

編集後記

岩田地崎建設「2023-2024サステナビリティレポート」をお読みいただき、ありがとうございます。

SDGs推進委員会は、従来より独自に展開していた環境活動・CSR活動をより伸展させ、社会全体への普及を図ることを目指し2018年に発足・設置されました。発足以来、私たちは持続可能な未来に向け、さまざまな取り組みを拡大してきました。CO₂排出削減に向けた具体的目標の策定、災害時の事業継続計画(BCP)の推進、多様な人材のエンゲージメント向上へ向けた取り組み、また2022年からスタートした「緑の森林プロジェクト」では森林と生物多様性の保全を中心に据えた環境活動を展開するなど、新たなチャレンジも進めてきました。

活動開始から6年を迎えた今、気候変動などの環境問題は一層深刻化しています。また、社会情勢も複雑さを増していく中、建設業界もその影響を強く受けており、これに対応するための新しい解決策が求められています。私たちはこの変化に柔軟に対応し、より広い視点からのアプローチを目指すため、委員会のメンバーを増員し多様な部署が参加するチームを形成してきました。また、外部の有識者や専門家、ステークホルダーの皆さまとの対話を重視し、多様な角度からの考察を取り入れながら、社会状況の変化に対応できる体制を構築しています。

私たちの目指すところは、様々な活動を通じて業界全体に大きな変革をもたらし、持続可能な社会への移行を加速させることです。そのためにも、活動実績の振り返りや報告などを通じた情報発信を継続し、関係者の皆さまとの対話を深め、知見を共有しながら課題解決に取り組んでいきたいと考えています。

次世代に持続可能な未来を残すため、私たちは今後も一歩ずつ着実に前進し、挑戦を続けてまいります。

最後となりますが、本レポートの製作に協力くださいました関係者の皆さまに、心より感謝を申し上げます。

SDGs推進委員会 事務局長 上村 英史

2023年度SDGs取り組み状況と実績の報告

これまでの取り組みと実績を報告します。

岩田地崎建設株式会社 2023年度 SDGs取り組み状況と実績 (2023年4月1日～2024年3月31日)

課 題	キーワード	活 動 内 容	2023年度 指 標 (KPI)	2023年度 目 標	2023年度 実 績	評価 (※1)
持続可能な 企業活動	コンプライアンスの推進 ガバナンスの強化	社員への コンプライアンス研修の実施	コンプライアンス研修実施回数 (本社、各支店での開催)	8回/年	7回/年	△
		コンプライアンスの徹底	重大な違反の件数	0件/年	0件/年	○
	情報セキュリティの強化	セキュリティに関する情報発信、 管理室での常時監視	情報漏えい(セキュリティ事故)件数 継続的改善・強化	0件/年	0件/年	○
		情報セキュリティポリシーの構築	継続	策定中	策定	○
	BCP(事業継続計画)の 推進	前年度訓練の評価に基づく より実践的な災害発生時の行動確立	継続	1回/年	1回/年	○
地域・社会への 貢献	学校教育分野に おける活動	インターンシップの取り組みの深化	インターンシップの満足度向上	指標設定	設定完了	○
		職場体験学習等の開催・協力	開催・協力件数	3件/年以上	7件/年	○
	地域・社会への貢献	地域の歴史・文化活動への参画	イベント地域貢献活動への参画件数	150件/年以上	142件/年	△
		災害時の地域への対応	地域へ貢献できる手法の検討	—	—	—
環境保全への 取り組み	生物多様性の保全への 取り組み	緑の水田プロジェクトの継続実施	プロジェクトの継続と拡充	—	—	—
		緑の森林プロジェクトの継続実施	プロジェクトの継続と発展	—	—	—
	CO ₂ 排出量削減	CO ₂ 排出量の削減	算定システム導入、試行、 スコープ1、2の排出量検証、 スコープ3を含めた排出量の 削減目標の設定	検証済み 目標設定中	○	
快適な 職場環境の 実現	週休二日(現場閉所)に 向けた取り組み	週休二日(現場閉所)の実現に向けた 環境整備	全作業所の4週8閉所の定着化		継続推進	
	多様な人材の エンゲージメントの向上	多様な人材の確保 活躍推進	ダイバーシティの推進、 多様性のある人材の確保育成に 向けた新卒女性社員・中途社員・ 外国人の採用比率	25%	55%	○
		ワーク・ライフ・バランスに向けた 職場環境整備	働きがいのある職場環境づくりを 目指した具体的な取り組み推進	—	—	—
		社員への教育制度の充実	人事評価制度の見直し 管理職への考課者研修実施	1 Set	1 Set実施	○
持続可能な 建設業の技術	土木・建築・環境分野の 技術	積雪寒冷地ならではの技術の活用 スマート技術(ICT技術等)の導入推進 脱炭素社会に向けた新技術の推進	有効な技術の活用推進	継続推進		
		持続可能な取り組みへの拡大	SDGsアクションポイントシステム開始	継続推進		
	まちづくりへの貢献	街並みと賑わいを創出する 再開発事業への参画	事業推進を担う パートナーとしての事業継続	継続推進		
	災害復旧への貢献	被災した施設の 早期機能復旧への貢献	防災協定の締結 復旧・復興への積極的協力	災害復旧工事依頼に対する対応 100%	100%	○
持続可能な 社会の実現	パートナーシップの推進	産学官連携プロジェクトの推進	異業種企業との対話、 共同研究実施、セミナー等への 出席率	90%	88%	△
	国際協力の推進	グローバルな視点における 持続可能な社会実現のための海外支援	開発途上国のプロジェクト継続件数	2件/年	3件/年	○

※1・・・ 評価の目安 ○:100%以上の達成 △:80%以上の達成 ×:80%未満の達成 —:評価対象なし

2022年に迎えた創業100周年を節目に
ミッション・ビジョンが策定されました。
私たちは、次の100年へ向け、挑戦を続けます。

ミッション

社会における私たちの存在意義

安心して豊かな社会環境づくりに貢献する

ビジョン

私たちの志・目指す姿

人と自然の
最適環境をつくる
企業

技術と経験と創意を
集結し、時代に合わせた
人のくらしと未来の
あり方を追求します。

地域から
頼りにされる企業

地域とのつながりを
大切にし、真に頼られ、
親しまれる企業を目指
します。

個々の成長を
促す企業

互いを認め合い、一人
ひとりが個性や能力を
発揮できる、チャレンジ
精神と創造性にあふれた
社内風土を築きます。

チャレンジ

ZERO
カーボンニュートラル
の実現
気候変動リスクや
自然災害リスク低減
への貢献

安心安全な暮らし
の実現
本当の安全と安心を
手にする未来へ向けて

循環型社会
の実現
廃棄物ゼロを
目指して

自然と共生する
社会の実現
人と自然が共生できる
未来づくりを

未来へ向かって
岩田地崎建設が目指すSDGs



会社概要

商 号 岩田地崎建設株式会社

創 業 大正11年(1922年)

資 本 金 20億円

従業員数 814名(2024年4月1日現在)

決 算 期 3月

本 社 〒060-8630 札幌市中央区北2条東17丁目2番地

支 店 東北・東京・名古屋・大阪・広島・四国・九州・海外

営 業 所 旭川・函館・帯広・釧路・岩手・横浜・千葉・新潟・埼玉・神戸・台湾

事業内容

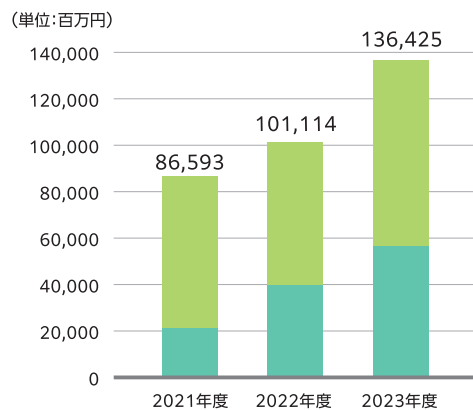
1. 建築工事、土木工事、機械装置の設置工事、その他建設工事全般に関する請負または受託
2. 建設プロジェクトならびに地域開発、都市開発、海洋開発、資源開発、環境整備、エネルギー供給に関する事業に関する調査、企画、研究、評価、診断、測量、設計、監理、調達、運営管理、技術指導、その他総合エンジニアリング、マネジメントおよびコンサルティング
3. 土地の造成および販売、ならびに住宅等建物の設計、施工および販売
4. 道路、鉄道、港湾、空港、河川、上下水道、庁舎、廃棄物処理施設その他の公共施設およびこれらに準ずる施設等の企画、設計、監理、施工、保有、賃貸借、譲渡、維持管理および運営
5. 不動産の売買、斡旋および賃貸、管理、企画ならびに鑑定評価
6. 特別目的会社または組合および不動産投資信託への出資、出資持分の売買ならびに信託受益権の売買、鑑定評価
7. 金銭貸付および債務保証その他の金融関連業務
8. 建設資材の製造、採取、売買ならびに建設機械、装置、仮設機材の企画、製作、調達、販売、賃貸
9. 情報処理技術、ソフトウェア、電子機器、通信機器、人工知能技術を用いた製品の企画、開発、実施許諾、販売、および賃貸
10. 建物、設備、構築物、地盤の検査、診断、観測、評価、マネジメントおよびコンサルティング
11. 一般廃棄物・産業廃棄物・建設副産物の収集、運搬、処理、処分、再利用に関する事業、環境保全および循環型社会形成に関する調査研究、企画、開発、エンジニアリング、マネジメントおよびコンサルティング
12. 農林水産業関連技術の開発、取得ならびに生産、販売、実施許諾、その他関連施設の運営およびコンサルティング
13. 前各号に付帯する一切の事業

沿革

1922年	札幌で土木建築請負業「岩田組」創業
1945年	「株式会社岩田組」設立 初代 岩田徳治社長就任
1949年	社名を「岩田建設株式会社」に変更
1960年	初代 岩田徳治会長・二代 岩田巖社長就任
1986年	三代 岩田基義社長就任
1989年	二代 岩田基義会長・四代 眞田眞社長就任
1998年	三代 眞田眞会長就任・五代 岩田圭剛社長就任 ISO9001全社一括認証取得
2003年	ISO14001(環境)OHSAS(現COHSMS)同時認証取得
2007年	株式会社地崎工業と合併「岩田地崎建設株式会社」が誕生 資本金20億円に増資
2011年	東日本震災復興対策室を開設、復旧・復興を支援(東北支店内)
2022年	創業100周年を迎える

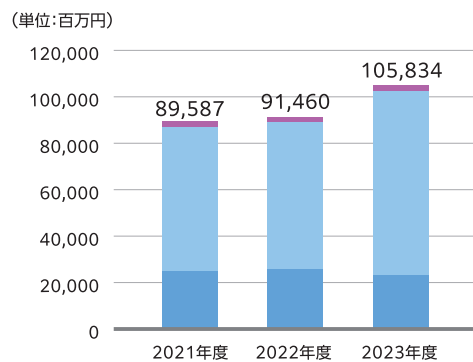
受注高

■ 受注高(土木) ■ 受注高(建築)



完成工事高

■ 完成工事高(土木) ■ 完成工事高(建築) ■ 兼業売上高



事業所一覧

● ① 本社
〒060-8630
北海道札幌市中央区北2条東17丁目2番地
電話 011-221-2221(代表)
FAX 011-222-7682

支店

● ② 東北支店
〒980-0802
宮城県仙台市青葉区二日町12番30号 日本生命仙台勾当台西ビル5階
電話 022-223-7755/FAX 022-227-7147

東京支店・海外支店

東京支店
〒102-8566
東京都千代田区紀尾井町3番6号 紀尾井町パークビル
電話 03-6261-1581/FAX 03-6261-1591

海外支店
〒102-8566
東京都千代田区紀尾井町3番6号 紀尾井町パークビル
電話 03-6265-6173/FAX 03-6265-6174

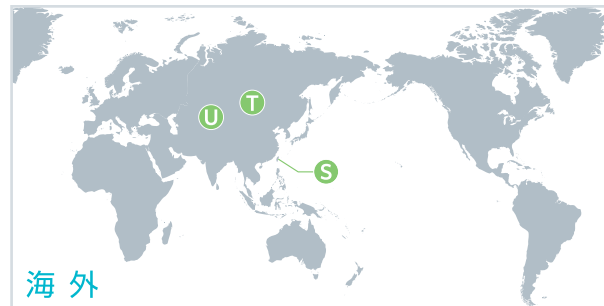
● ③ 名古屋支店
〒460-0003
愛知県名古屋市中区錦1丁目18番24号 いちご伏見ビル6階
電話 052-221-6381/FAX 052-231-1980

● ④ 大阪支店
〒540-0008
大阪府大阪市中央区大手前1丁目7番31号 OMMビル8階
電話 06-6944-7222/FAX 06-6944-7775

● ⑤ 広島支店
〒732-0824
広島県広島市南区的場町1丁目3番6号 広島の場ビル
電話 082-568-0952/FAX 082-568-0953

● ⑥ 四国支店
〒760-0026
香川県高松市磨屋町3-1 合田不動産磨屋町ビル4階
電話 087-851-2756/FAX 087-851-2708

● ⑦ 九州支店
〒812-0011
福岡県福岡市博多区博多駅前3丁目27番24号 博多タナカビル
電話 092-409-8701/FAX 092-409-8702



海外

海外営業所・駐在員事務所

● ⑧ 台湾営業所
中華民國台灣台北市中正區忠孝東路1段85號 凱撒世貿中心 11F-2
日商岩田地崎營造股份有限公司台灣分公司
電話 (886)2-2321-9369/FAX (886)2-2321-9364

● ⑨ モンゴル駐在員事務所
5A-32, 7 khoroo, Sukhbaatar-District, Ulaanbaatar, MONGOLIA
(CURIOS ITI SUDLAACH LLC 内)
IWATA CHIZAKI INC. Representative Office, Mongolia
電話 (976)9711-9900

● ⑩ キルギス駐在員事務所
18-34, 10 microdistrict, Bishkek, Kyrgyz Republic
IWATA CHIZAKI INC., Kyrgyz Representative Office
電話 (996)555-616-136

営業所

● ⑪ 旭川営業所 〒070-0035 北海道旭川市5条通9丁目左1 ベストアメニティ旭川ビル
電話 0166-25-5668/FAX 0166-25-5671

● ⑫ 函館営業所 〒040-0061 北海道函館市海岸町14番5号
電話 0138-43-0448/FAX 0138-43-0446

● ⑬ 帯広営業所 〒080-0802 北海道帯広市東2条南13丁目19番地 まるせん第2ハイム
電話 0155-23-5687/FAX 0155-23-5693

● ⑭ 釧路営業所 〒085-0015 北海道釧路市北大通10丁目2-1 新釧路道銀ビル
電話 0154-22-4566/FAX 0154-22-4586

● ⑮ 岩手営業所 〒020-0024 岩手県盛岡市菜園1丁目3-6農林会館8階
電話 019-613-5020/FAX 019-613-5030

● ⑯ 横浜営業所 〒231-0037 神奈川県横浜市中区富士見町1番1号 富士見町ビルディング
電話 045-262-1966/FAX 045-262-1970

● ⑰ 千葉営業所 〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央1丁目7番8号 シグマビル
電話 043-227-7002/FAX 043-227-7080

● ⑱ 新潟営業所 〒950-0901 新潟県新潟市中央区弁天2丁目1番1号 弁天ビル
電話 025-244-5759/FAX 025-245-3325

● ⑲ 埼玉営業所 〒330-0845 埼玉県さいたま市大宮区仲町1丁目104 大宮仲町AKビル
電話 048-788-3050/FAX 048-788-3037

● ⑳ 神戸営業所 〒651-0085 兵庫県神戸市中央区八幡通3丁目2番5号 I・N東洋ビル
電話 078-251-7161/FAX 078-251-3504



“健全な地球を
未来へつなぐための
私たちの行動目標”です

世界には多くの課題があふれています。その中でも特に重要な課題について『17のゴール』を設定し、全世界で取り組んでいこうと掲げているのがSDGs(持続可能な開発目標)です。

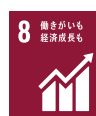


4 質の高い教育をみんなに

だれもが公平に 質の高い教育を受けられるようにしましょう



世界中のすべての子供たちが無償で質の高い教育を受けられるような社会を作ろう。求める誰もが大学などの高等教育や技術教育など、生涯にわたり学び続けられる仕組みを作っていこう。



8 働きがいも経済成長も

経済を持続可能に成長させつつ、だれもが働きがいある仕事ができるようにしましょう

技術の向上・イノベーションを図り、新たな価値を発掘し、新たな需要創出や雇用を継続的に生み出そう。すべての人が働きがいを持って安心して働ける環境を作っていこう。



12 つくる責任 つかう責任

作る人も使う人もお互いが責任を持ち持続可能な形で生産・消費しよう



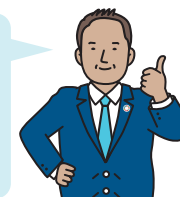
限られた地球の資源を大切に利用し、未来も同じクオリティ以上の資源を活用していくため、これまでの自分のやり方を見直してみよう。3R(リデュース・リユース・リサイクル)を進め、ごみの削減を推進しよう。



16 平和と公正をすべての人に

だれもが平和に安心して暮らせる法に守られた社会の仕組みを整えよう

私たちの生活は、平和・安全・安定・人権そして法令遵守に基づいて成り立っているよ。すべての人が自分の意思を平等に伝えられる機会が与えられ、紛争や暴力・犯罪のない世界を目指そう。



1 貧困をなくそう

世界中のあらゆる場所で、あらゆる形の貧困を終わらせよう

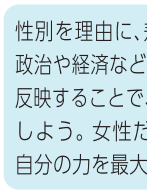


世界中には貧困で困っている人がまだ数多くいるんだよ。世界中すべてのひとが生きていくのに困らない衣食住などの基礎的サービスを受けられるような環境を整備しよう。



5 ジェンダー平等を実現しよう

性別を理由に 不平等な扱いを受ける世界を変えよう



性別を理由に、差別や暴力を受けることをとめよう。政治や経済などの重要な意思決定の場に女性の意思を反映することで、性別に関係ない公平な仕組みづくりをしよう。女性だけでなく、すべての人がいきいきと自分の力を最大限発揮しながら働ける社会にしよう。



9 産業と技術革新の基盤をつくろう

災害に強いインフラを整備して、持続可能な産業を発展させよう



情報通信・エネルギー・交通・公共施設など、私たちの社会生活基盤となるインフラ。災害非常時などに損壊したとしても早急に復旧が可能な、質の高いインフラ整備を目指そう。



2 飢餓をゼロに

だれもが必要な分の、栄養のある食事を食べられるようにしましょう



飢餓に苦しんでいる人をなくすために、栄養が十分な食料の安定確保をしよう。そのために農業分野の技術開発、農作業の効率化をしていこう。まずは身近な食品ロスをなくすことから意識してみよう。



6 安全な水とトイレを世界中に

衛生的な環境を保てる仕組みを広め、すべての人が安全な水を利用できるようにしよう

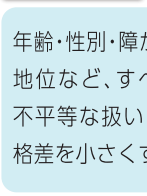


日本は水循環システムが確立し、非常に衛生的な国なんだ。このような上下水道の処理技術を広めることで、世界中のだれもが安心して安全な水を飲めるようにしましょう。同時に水質汚染を防ぎ、水環境の生態系も守っていこう。

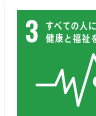


10 人や国の不平等をなくそう

ひとつの国の中でも、国と国の間でもすべての不平等をなくそう



年齢・性別・障がい・人種・民族・出自・宗教・経済的地位など、すべての人がその違いに関わらず、不平等な扱いを受けない世界を目指し、様々な格差を小さくする仕組みづくりをしよう。



3 すべての人に健康と福祉を

すべての人が健康的に暮らしていける仕組み・社会をつくろう

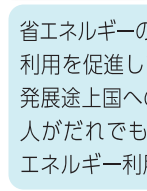


ひとりひとりが病気に関する正しい知識と予防方法を身に着けよう。そのための人材育成・教育を受けられる仕組みをつくり、世界中のすべての人が、適切な医療を適切な時期に受けられるような社会にしていこう。



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

世界中のだれもが、必要な分のエネルギーを安心して使えるようにしましょう



省エネルギーの推進と同時に、再生可能エネルギーの利用を促進していこう。発展途上国への技術教育・提供によって、世界中の人がだれでも必要な時に必要な分だけ安定したエネルギー利用ができる環境を作っていこう。



11 住み続けられるまちづくりを

だれもが住みやすく、安全で災害にも強い持続可能なまちづくりをしよう

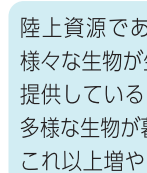


都市部に集中している人口を郊外に分散させる交通網の形成、都市空間の整備・管理方法を考えて持続可能なまちづくりをしていこう。だれもが安心・安全で快適に利用できる施設・環境づくりを目指そう。



15 陸の豊かさも守ろう

森林・山・河川などを大切にし、多様な生物が生息できる環境を守ろう



陸上資源である、森林・砂漠・湿地や河川などは様々な生物が生きていく上で必要な生活の場所を提供しているよ。多様な生物が暮らせる生態系を守り、絶滅危惧種をこれ以上増やさないようにしていこう。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは？

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。

持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。

SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。